



女子教訓狂歌合 神明宮



江戸名所道戯尽 三十四
虎の御門外の景

港区政 60 周年記念事業・平成 18 年度特別展

「UKIYO-E 一名所と版元一」

現在の港区には、汐留地区や六本木など、最先端都市の象徴とも言える「名所」があり、毎日多くの人々が訪れています。また、民放テレビ局やラジオ局等が集中する、「情報発信の地」という特色があります。このような地域性は近年顕著になりましたが、江戸時代後半にも、情報発信の地であったことはあまり知られていません。

港区域には江戸時代から多くの名所があり、人が集まる活気に満ちた地域であったことが、当時の名所を描いた浮世絵の数々からわかります。浮世絵や絵草紙は流行や情報を知るための重要な媒体でしたが、これらを作り出す版元が、日本橋地区に次いで芝神明地区（現在の浜松町・芝大門界限）に集中していました。つまり、港区域は当時も情報の発信地であったのです。

港郷土資料館では、港区の歴史を知る上で有効な資料を所蔵しています。この中には、みなんと図書館旧特別資料室で昭和 37 年（1962）から平成 15 年（2003）の間に収集され、本館に移管された、絵画、地図、版本など、総計 2500 点を超える資料が含まれています。中でも浮世絵版画（錦絵）約 500 点は、質・量ともに充実したコレクションです。

このたび、港郷土資料館では、「UKIYO-E 一名所と版元一」と題した特別展を開催いたします。上記館蔵資料の浮世絵版画を中心に、近年購入した資料、また他機関のご厚意によってお借りした貴重な資料を加え、「描かれた港区」の姿＝名所と、港区の版元やゆかりの絵師によって「港区で生まれた」作品、約 250 点を展示いたします。

赤坂溜池

— 「UKIYO-E」に描かれた名所の移り変わり —

赤坂一丁目と二丁目との境、外堀通りと六本木通りの交差点は「溜池交差点」と呼ばれています。「溜池」とは、かつてこの辺りに、広大な溜池が水を湛^{たた}えていたことに由来する地名です。



現在の溜池交差点のようす

溜池は、赤坂見附から日枝神社の麓をめぐり、虎ノ門へと至る、江戸城南西に位置する外堀のことで、徳川家康の意を受けて、当時の和歌山藩主浅野幸長^{よしのなが}が築造を行い、慶長11年（1606）に完成しました。江戸時代初期、玉川上水が整備される以前には溜池の水は上水としても用いられており、寛永9年（1632）の『寛永江戸図（武州豊嶋郡江戸庄図）』には溜池に「江戸水道之水上」と記されています。『慶長見聞集^{けんちょうけんもん}』によると「此^{この}水を味ふに、只是^{ただこれ}薬の泉なれや、五味百味を具足せり（備えている）。色にそみてよし、身にふれてよし、飯をかしいでよし、酒茶によし」とあり、清水であったことがうかがえます。後に二代将軍秀忠の命により、琵琶湖の鮒、淀川の鯉などを放したため、鮒や鯉が生息するようになったと伝えられ、また蓮が多く植えられており、幕末に至るまで江戸有数の景勝地として知られていました。

溜池の周辺は、当初、湿地帯であり、下って田地となったようですが、江戸の発展にともない、寛永年間（1624～1644）よりおいおい町屋となり、溜池に沿うような形で赤坂田町一丁目～五丁目などが起立します。周辺の町地化が進むにつれ、溜池も自然堆積や埋立てにより、一部が陸地化し、そこに馬場や紺屋物干場などが作られていきました。赤坂田町五丁目の地先、現在の赤坂二丁目7、8、9番あたりは俗に桐畑と呼ばれていました。これは元来、明地となっていた場所に享保の頃（1716～1736）、桐の木を植えて栽培したことに由来します。この辺りの眺めは最も風致に富み、茶店や料理茶屋、岡場所（非公式の遊女屋）などが集まるようになり、後の赤坂花柳界の基となりました。

明治維新後、江戸城外堀としての機能を失った溜池は、明治8～9年（1875～1876）ごろより虎ノ門側にあった通称「どんどん」と呼ばれる堰堤^{えんてい}の石垣（表紙写真右）を2尺程取り除いて水を落とし、埋立て工事が行われました。明治21年、新たに造成された溜池跡の埋立地に赤坂溜池町が起立します。しかし、赤坂溜池町も昭和41年（1966）、住居表示の実施により赤坂一丁目・二丁目の一部となり、今では、かつての広大な溜池の面影はなく、前述の溜池交差点やバス停留所、地下鉄「溜池山王駅」などにその名をとどめるばかりとなりました。

10月20日より本館で開催される平成18年度特別展「UKIYO-E 一名所と版元一」では、今回、紹介した溜池をはじめ、港区内の名所を描いた浮世絵が数多く展示されます。これを機会に浮世絵に描かれた風景などから、今では失われた景観、場所の記憶などに思いをはせてみてはいかがでしょうか。

（文化財保護調査員 平田秀勝）

「夏休み学習会」を行う大学としてのねらい

昔から夏休みの自然学習のために博物館や水族館は大いに利用されています。自然で採集した生き物や石や貝などの名前や所属を調べるのは楽しいけれど大変な作業です。ある程度調べた後、博物館に行って学芸員の方に訊いてしまうのが手っ取り早い方法です。でも、普通は博物館はそんな身近にあるわけではありません。せっかく港区にある大学キャンパスなので、是非とも地域の方々に有効に利用して頂きたいと思っております。ただ、大学祭やオープンキャンパスの際には自由に来学して頂けますが、普段は大学構内に入るのはなかなか敷居が高いと思われています。そこで、大学側から皆様をお誘いできる様々な企画（特別展示・講演）の立案を考えております。その一環として港区在住の小学生や中学生を対象とした夏休み学習会が開かれております。このような企画を通じて、東京海洋大学でどのような研究や教育を行っているかを地域の方々に知って頂けることを期待しています。

当大学の水産資料館には海、船、海洋生物がキーワードとなる様々な資料が保存されています。これらの資料の多くは今では手に入れることのできない貴重な物ばかりです。

「捕鯨」ってどんな風にやっていたのだろう？
「ガラパゴス諸島の生き物」は実際にはどんな形や大きさなのだろう？

「海藻の押し葉標本」はどういう方法で作るのだろう？

「世界中で一番大きなカニ」はどれくらいの大きさなのだろう？

など、さまざまな疑問を解決してくれる実物が展示されています。ここでの学習会の開催の意義は、理科離れ、実物離れといわれる現代の小中学生に実物を見てもらい、それを専門家に解説していただくことで、私たちが昔味わった感動以上のものを得ることにあります。

東京海洋大学には、他にもいくつかの公共の利に資することのできる施設があり、大学グラウンドでのスポーツ大会の開催や海の日における体験乗船など、これまでいくつかの企画を行ってきました。今後とも地域の方々と一緒になって、より効率的に港区住民の文化のレベルを高める一翼を担っていきたいと考えております。

なお、東京海洋大学海洋科学部附属水産資料館および鯨ギャラリーは、大学構内に入っすぐのところにあります。平日 10-16 時に開館していますので、自由にご覧ください。

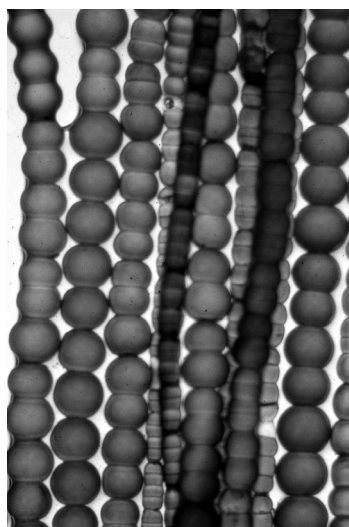
（東京海洋大学 海洋科学部
附属水産資料館長 田中次郎）



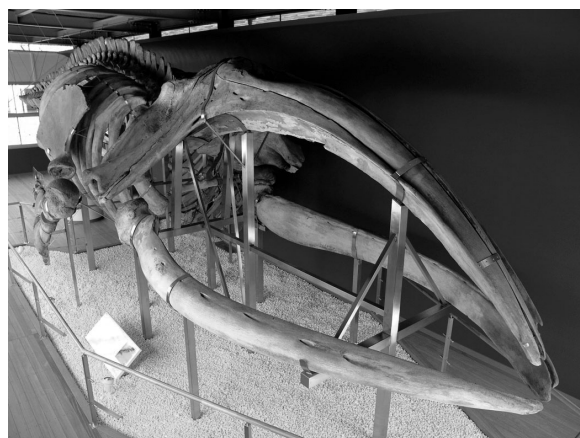
ガラパゴス諸島のイグアナ



世界最大のカニ タカアシガニ



海藻のタマジズム



セミクジラの骨格

郷土資料館講座

「港区近代人物誌Ⅱ」から

本年7月に4回にわたって開催した「港区近代人物誌Ⅱ」は、「みなと文化コミュニティー集って・蒐^{あつ}めて・学んで・創ってー」というサブタイトルで表したように、近代の港区域で活動した人々を、個として追うだけでなく、彼らが中心となったコミュニティの活動やその「場」を知ろうとするものでした。

第1回「黒田清輝^{せいき}と葵橋洋画研究所」（講師：東京文化財研究所 田中淳^{あつし}氏）は、「日本近代洋画の父」黒田清輝（1866-1924）が葵橋（赤坂溜池）で洋画を教え、そこに木村莊八^{しょうはち}らが通った様子、麴町平河町（千代田区平河町）の本邸と晩年を過ごした麻布^{まふ} 筈^{つがい}町（西麻布）の別邸の広さが当時の地籍台帳で明らかになる過程など、調べる楽しみも伝わったのではないのでしょうか。養父を継ぎ貴族院議員でもあった黒田にとっての「画業」、も興味深い問いかけでした。なお、併せて黒田の墓誌と副葬品（本館所蔵）を展示しましたが、その内の眼鏡2点は、販売元の眼鏡店により、軽い近眼用と老眼用であろうとのご教示をいただきました。

第2回「紅葉館^{こうようかん}に集った作家たち」（講師：文芸評論家 坪内祐三氏）では、東京タワーの足元の位置にあった会員制料亭・紅葉館に集った、尾崎紅葉^{いわざきこうみ}・巖谷小波^{いわや さざなみ}ら文学者や子安峻^{こやすたかし}・大橋新太郎といった実業家、そして紅葉館の才色兼備の女性たちとの綾なす関係が、明治という時代を背景に語られました。尾崎の『金色夜叉^{こんじきやしゃ}』はここで巖谷と大橋、女中お須磨らをモデルに着想されたといいますが、文学の世界だけでなく、さまざまなドラマが実際に繰り広げられていたのでしょう。

おそらく今回最も「知る人ぞ知る」テーマ、第3回「三田平凡寺^{へいぼんじ}と我楽他宗」（講師：宇都宮美術館 浜崎礼二氏）で見たのは、高輪の泉

岳寺門前の奇人・三田平凡寺（1879-1960）と、彼が開いた趣味収集家の集まり「我楽他宗」の平凡寺に劣らず個性的な人々との、学問や権力とは無縁のエネルギーに満ちた世界です。「我楽他宗」の名は尾崎紅葉らの『我楽多文庫』をもじっているそうですが、まさに我も他も楽しく、各々好きな物に囲まれ、屋根裏等で集まっていた様子が生き活きと浮かび上がりました。

同じ屋根裏でも、好対照だったのが第4回「渋沢敬三とアチックミュージアム」（講師：渋沢史料館 永井美穂氏）です。幼いころから学問の面白さにとりつかれながらも、祖父栄一に懇願されて渋沢宗家を継いだ敬三（1896-1963）は、数々の要職をつとめながら、三田綱町（三田二丁目）自邸物置のアチック（屋根裏）を拠点として、郷土玩具や民具の収集、農民・漁民らの「日々の暮らし」の記録・出版等をおこない、また多くの研究者を育みます。そうした活動中の貴重な写真も見ることができました。

講座の準備中、これらの人や場の記憶が地元でも急速に失われつつあることを痛感しました。私たちがいま為すべきことは少なくありません。

ー関連文献ー

田中淳『画家がいる「場所」』ブリュッケ、2005年
坪内祐三『極私的東京名所案内』彷徨舎、2005年
池野籐兵衛『料亭 東京芝・紅葉館』砂書房、1994年
展覧会図録『構造社展』キュレイターズ、2005年
高橋徹『月の輪書林それから』晶文社、2005年
展覧会図録『屋根裏の博物館ー実業家渋沢敬三が育てた民の学問ー』横浜市歴史博物館、2002年

主な人物については、

「港区ゆかりの人物データベース」

<http://www.lib.city.minato.tokyo.jp/yukari/j/>
をご覧ください。

（文化財保護調査員 大坪潤子）

海を渡ったサムライの「記念撮影」

～文久遣欧使節に随行した黒澤新左衛門の日記から～

2003 年 12 月、本館は北青山の海蔵寺より、幕府の遣欧使節・竹内下野守^{しもつけのかみ}一行の肖像写真 26 葉の寄贈を受けました。これは同寺を菩提寺としていた使節監察・京極能登守高朗^{の とのかみたかあき}の家（旗本）に伝わったものです（概要は『資料館だより』53 号で紹介済み）。今年 7 月 1 日から 8 月 11 日まで、コーナー展「海を渡った江戸・東京の風景」のなかでこの写真を公開しましたが、その際にあらためて調査をおこなった結果、京極の従者として渡欧した黒澤新左衛門の日記「欧羅巴航日録^{ヨーロッパにちろく}」が残っていることがわかりました。ここでは、日記から京極・黒澤の写真撮影に関する記述を抜き出し、海を渡ったサムライの「記念撮影」がどのような状況でおこなわれたのか、考えてみたいと思います。

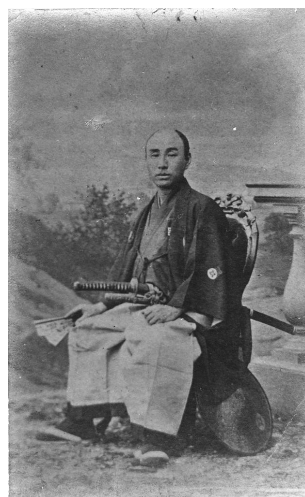
使節一行の最初の写真体験は、ヨーロッパではなく、往路で立ち寄った香港でした。文久 2 年（1862）1 月 10 日、黒澤の日記に、「写真鏡の場所へ、Donald 御案内申し上げ、御二方様とも写真いたし候。これは此方^{このほう}よりの御望みにはこれなく、先方より写真いたしたく、先ず相願ひ候やに相伺い候」と、主人・京極能登守が「御二方様」（使節正使竹内下野守・副使松平石見守^{まの かみ}）とともに、スタジオへ写真撮影に訪れたことが記されます。撮影は日本側が希望したことではないと断っている点に、写真への微妙な抵抗感がうかがえます。

パリ到着後の 3 月 24 日。「先達^{せんだつ}て（京極らの肖像を）写候へども、写りよろしからず、今一度写したき旨」が写真師より伝えられ、黒澤も主人の再撮影のため、お供をしてスタジオに行きます。そのとき「御供も伊九太、丈助、拙者、三人一度に写し候」と、黒澤も正副使の従者とともに初めてカメラにおさまったのでした。

これが興味深い体験だったのか、ロンドンに



京極能登守高朗



黒澤新左衛門

滞在中の 4 月 25 日には、「近所遊歩、写真致し候、一枚ニシルリング半づつなり」と、黒澤はどうやら個人的にスタジオを訪ね、写真を撮影してもらっているようです。オランダのハーグでも写真館を訪れた黒澤は「代料は尋ね候処、それには及ばずと申し候」と、代金をただにしてもらったこともありました。

写真術が日本に伝わって間もない時期で、多くの随員にとって「記念撮影」は初体験でした。はじめは外国側の要望でカメラに写った日本の武士ですが、徐々に自らを写すことに興味を持っていく様子が日記からうかがえます。このような事情を知ったうえで、今に残された肖像写真を見ると、150 年前にカメラの前に立った武士の心情さえも察することができるように思うのです。（文化財保護調査員 吉崎雅規）

日記は、京極家の陣屋があった兵庫県和田山町（現・朝来市^{あさき}）の町史編纂室から『和田山町の歴史 9』（1990 年）として、また、ご子孫黒澤重一氏が、『ヨーロッパ航日録』（私家版、2000 年）との題名で、それぞれ読み下し文を刊行しています。

自治大学校等跡地内遺跡 発掘調査速報

～武家の屋敷と内閣統計局～

南麻布四丁目の自治大学校等跡地内遺跡では、現在、発掘調査が進められています。

江戸時代のこの場所には、石見国（現在の島根県）津和野藩亀井家の屋敷が、後に旗本松平家の屋敷がありました。南部坂を上りきった、通りに面した高台にあり、江戸図によると南部坂側に屋敷の正面入口が作られていました。

自治大学校等跡地内遺跡の発掘調査は、平成18（2006）年6月の初めに始まり、すでに約4ヶ月が経過しました。調査の進行と共に、江戸時代の様子が明らかとなっています。

調査は、既存建物を避ける形で3箇所に分割して行っています。南部坂に最も近い調査区では、方形に並ぶ柱跡や植栽を行なった跡などが発見されました。屋敷の中でもこの場所は正面入口側と考えられることから、発見された柱跡などは表長屋あるいは屋敷と通りとの境に関わる施設と推測されます。また、人が歩いたことで土が固く締まったと考えられる、硬化した土層面も検出されています。

敷地中央部分の調査区では、大形の柱跡や溝状遺構、地下室、井戸、大形の土坑などが検出されました。大形の柱跡は、長軸約80cm、短軸約61cm、深さ約70cmの掘り込みに、幅約19cm



写真2 土器や貝殻等が多量に捨てられた井戸

の柱を据えたもので、4基確認されています。一部が調査区外へと続いているため全体の様子は明らかとなっていませんが、おそらく塀の基礎と考えられます。井戸は非常に大形で、上部の最も広いところで直径が約320cmもありました（写真2）。中からは、井戸が使われなくなってから捨てられた江戸時代の茶碗や皿、徳利などの陶磁器、小形の土器皿などと共に、食べたあとのアワビやサザエなどの貝殻が多量に出土しています。地下室や大形の土坑からも、陶磁器や、灯明皿などの明かりの道具などがまとまって発見されました。

明治時代になると、本遺跡には内閣統計局が置かれました。内閣統計局は、人口動態調査や国勢調査、その他の統計調査を行う機関で、現在は独立行政法人統計センターにその機能は引き継がれています。発掘調査では、「統計局」と書かれた湯呑み碗が、揃いで見つかりました。この地に統計局があったという歴史を物語っています。

発掘調査は、平成19年3月までの予定です。今後、敷地奥側に向かって調査を進め、江戸から明治にかけての歴史の痕跡を掘り起こしていきます。（文化財保護調査員 毎田佳奈子）



写真1 炎天下の調査光景

建物めぐりの楽しみ方

報告書『港区の歴史的建造物』の使用法

今年の3月に本館から、報告書『港区の歴史的建造物』が刊行されました。この本は、港区の代表的な歴史的建造物を紹介・解説した内容となっています。さて、報告書というと専門家が読む少し難しそうな本というイメージがあるかもしれませんが、しかし、建築に興味があったけれども、建物のどこに注目したらよいのかわからない、注目のポイントを教えて、といった質問にお答えするような内容となっています。そこで本稿では、報告書の使い方を説明し、建物の楽しみ方をお伝えしたいと思います。

建物の見方には、大きく分けてふたつあります。ひとつは、建物そのものを美術的な視点で見ることです。建物を絵画や彫刻を眺めるのと同じようにご覧ください。見ているだけで、きれいとか、住みたいとか、便利そうだとか、様々な感想が出てくると思います。さらに、建物には、絵画や彫刻にはない独自の楽しみ方があります。それは、空間を体感することです。絵画の中には入ることはできません。しかし、建物だけは中に入ることができ、その空間を体験できる作品なのです。空間とは、壁や天井の高さ、模様や光の入り方など様々な要素から構成されているものです。中を歩いてみて次々と景色が変わって見えたり、明るい空間や暗い空間がでてきたりする建物はゾクゾクしてきます。たとえば、お寺などはその空間に立つだけで、穏やかな気分になったりします。これも空間の効果であるといえます。また、建物の内部空間だけでなく町全体を空間として捉えて、その建物の外部意匠が町にどのような影響を与えているかを考えることも楽しみのひとつです。

ふたつ目の見方は、その建物の由来から作品を見ることです。現存する建物が、いつ建てられたもので、その時代がどのような時代であっ

たのか、建物の設計者がどのような人で、どのような趣向の人だったのか、その建物の住人がどのような経歴の持ち主で、どんな家族構成だったかといった情報を活かして建物を見てください。すると、その間取りや機能、デザインの面でなるほどと思える部分がたくさん出てきます。反対に、建物を見ることから家族構成や設計者の考えなどを推理する逆パターンは、ひとつめの方法に近いかもしれません。

本稿では、ふたつの視点を紹介しました。前者は美術的な見方、後者は資料的な見方とも言えます。報告書は、後者の見方を重点的にサポートしています。しかし、初めて見る建物や、報告書を読まないで建物の前に来てしまっても、前者の方法で建物を見てください。感動の次に、さまざまな疑問や推理が出てくると思います。さらにたくさんの建物を見てみると、疑問解明の引き出しが増えてきて、想像力がよりたくましくなってきます。とくに、建物は建築の知識だけで成立していません。美術の知識、生活の知識、工学の知識と幅広いジャンルの知識が詰まって成立しています。今まで積み重ねた自分の知識と建物を重ねて考えてみてください。必ず疑問解決の答えが出てきます。その推理力トレーニングに重要なのが、身近な建築を見ること、知ることです。ほかの地域を歩いたとき、身近な建物などとの比較から違いが気になるようになるはずです。すると、旅行などで行く先々にある町並みや建築のポイントを押さえて、じっくり見るができるようになります。

さあ、視線をいつもより上げて町に出てみてください。いままでの知識や報告書の情報を活かして、さまざまな想像、推理をしてみてください。これが建物めぐりの楽しみ方です。

(文化財保護調査員 川上悠介)

行事のご案内

特別展「UKIYO-E 一名所と版元」

・10月20日(金)～12月3日(日)

※特別展開催期間は開館日時が通常と異なります。

- ・開館時間：火～日曜日・午前9時～午後5時
- ・火曜日のみ午後7時45分まで開館
- ・休館日：月曜日・第3木曜日(11/16)
- ・展示解説：11/3(金・祝)、11/23(木・祝)
- ・資料保存のため、期間中に展示替を行います。

特別展関連事業 資料館講座「浮世絵と港区」

- ・11月14日、21日、28日(火曜日)
- ・申し込み制全3回

特別展関連事業 親子学習会

＜見て・さわって・学ぼう＞

「浮世絵ってなに？ー遊ぼう！学ぼう！江戸文化ー」

- ・11月18日、25日(土曜日)
- ・対象：小学校4・5・6年生と保護者
- ・申し込み制全2回

※応募方法は、広報・ホームページをご覧ください。

テーマ展 「平成17年度新収蔵資料展」

12月16日～平成19年4月18日

コーナー展「平成18年度指定文化財展」

12月16日～平成19年1月17日

コーナー展「館蔵 雛人形展」

平成19年2月16日～3月14日

コーナー展「遺跡調査速報展」

平成19年3月16日～6月

郷土資料館の本

港郷土資料館では、展覧会の図録の他にも、港区の歴史にかかわる本を出版しています。ここでは、本年3月に発行された新刊3冊を紹介します。

①増補 近代沿革図集 赤坂・青山 ¥1600

江戸時代から現在までの沿革図を掲載し、地域の解説を収録しています。昭和40年代に発刊されたオリジナルに昭和60年代と近年の地図を加え、町名や坂名の説明に最新の情報を加えた増補版となっています。



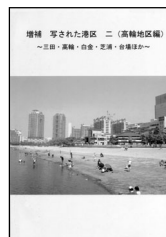
②港区の歴史的建造物 ¥1000

港区には様々な様式の歴史的建造物があります。江戸時代の寺や神社から、大正時代の洋館、昭和時代のモダンなビルなど様々です。本書ではこれらの個別紹介を行っています。



③増補 写された港区二（高輪地区編） ¥500

幕末から昭和中期に撮影された港区内の写真を、地域ごとに集め現代の写真と比較した人気シリーズの第2弾です。増補版として、平成17年現在の写真を再撮影・再編集しました。



行事報告 (平成18年3月～9月)

- ① 平成16年度新収蔵資料展 (～3月25日)
- ② 服部雅永氏(彫金)・平井松葉氏(刀剣研磨) 追悼展 (2月17日～4月19日)
- ③ 郷土資料館講座 港区近代人物誌Ⅱ 関連展示「黒田清輝 墓誌と副葬品」(7月1日～7月31日)
- ④ コーナー展 「海を渡った江戸・東京の風景」(7月1日～9月30日)
- ⑤ 資料館講座「港区近代人物誌Ⅱ みなと文化コミュニティ ー集って・蒐めて・学んで・創ってー」
(7月7日、14日、21日、28日)
- ⑥ 夏休み学習会「人とクジラのものがたり～クジラのこと、もっとしりたくありませんか～」(8月22日、23日)

港区立港郷土資料館の利用案内

- 交通** JR 田町駅より徒歩5分
都営地下鉄三田線・浅草線
三田駅より徒歩2分
- 開館時間** 9:00～17:00
- 休館日** 日曜祝祭日・第3木曜日
年末年始・特別整理期間
- 入場料** 無料



『資料館だより』58号

平成18年9月30日発行
編集・発行 港区立港郷土資料館
〒108-0014 東京都港区芝5-28-4
Tel03(3452)4966 Fax03(5476)6369
ホームページ
<http://www.lib.city.minato.tokyo.jp/muse>

R100 古紙配合率100%
再生紙を使用。



刊行物発行番号
18061-7541